

報道関係各位

札幌国際芸術祭2014追加アーティスト発表

スザン・フィリップス(英国)、
イアン・ウィルソン(南アフリカ、ヨコハマトリエンナーレ2014出展作家)ほか、
参加アーティストは、61人(組)に。

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会(札幌市中央区 会長:上田文雄)では、札幌初の国際的なアートフェスティバルである「札幌国際芸術祭2014(略称:SIAF2014)」を、札幌市が推進する「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として、世界的に著名なアーティストである坂本龍一をゲストディレクターに迎え、「都市と自然」をテーマに、2014年7月19日(土)~9月28日(日)までの72日間に渡り開催します。

この度、国際的に高い評価を受けているアーティストのスザン・フィリップス氏がSIAF2014に参加することが決まりました。音を用いた多様な表現によって、音が空間や建物を定義することや、感情的・心理的に人の意識に作用することに关心を抱くフィリップス氏は、様々な音にインスピレーションを受け、作品に転換していきます。札幌に訪れた際、特に「街を歩くなかで、自分が住む街とは違い、信号の音がカッコウや鳥のさえずりであること、またカッコウが札幌市の鳥であること(※1)に興味を抱いた」と言います。本芸術祭では、国内初となる6chのサウンド・インсталレーション《カッコウの巣》(2011)を展示します。

SIAF2014の企画展示「都市と自然」では、テーマに思いを馳せる「沈思黙考の空間」を創出することを意図しています。札幌芸術の森野外美術館敷地内にある樹木に囲まれた《北斗まんだら》(※2)の空間にフィリップス氏の作品を展示し、来館者を野外美術館の散策へと促します。どこからともなくカッコウの鳴き声を模したカノンが聞こえてくるように配慮しつつ、無音の時間を取り入れた展示方法にすることで、来場者が不意に作品を経験できるよう、場の自然環境や森の音そのものに人が関心を持つことを意図しています。

※1カッコウは、1960年に人口50万人を突破した記念として札幌市の鳥として制定されています

※2《北斗まんだら》は1986年の札幌芸術の森美術館開館時に、「環境造形Q」という3名の日本人作家のグループによって設計されました

また、札幌大通地下ギャラリー500m美術館企画展示「北海道のアーティストが表現する「都市と自然」一時の座標軸ー」に参加する北海道・札幌にゆかりのあるアーティスト総勢16名も決定しました(別紙ご参照ください)。

同時期に開催されます国際美術展「ヨコハマトリエンナーレ2014」と相互に協力する企画事業として、ヨコハマトリエンナーレ2014とSIAF2014の双方で作品を展示するイアン・ウィルソン氏を含め、札幌国際芸術祭2014の参加アーティストは総勢61人(組)となります(5月22日現在)。

【添付資料】

- ◆参加アーティスト情報①
- ◆参加アーティスト情報②

本件についてのお問い合わせ先

創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局

(札幌市観光文化局 国際芸術祭担当部)

担当: 山田・小倉 (やまだ・おぐら)

電話: 011-211-2314 FAX: 011-218-5154 E-mail: press@siaf.jp

HP: <http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/>

【添付資料】◆参加アーティスト情報①

◇スザン・フィリップス Susan Philipsz

音がいかにして空間や建物を定義するかという彫刻的な観点から音を用いる、スコットランド出身のアーティスト。ミュンスター彫刻プロジェクト07(2007)、サンパウロ・ビエンナーレ(2010)、ドクメンタ(13)(カッセル、2012)など多くの国際展に参加。2010年ターナー賞受賞。2014年大英帝国勲章受勲。

彫刻を学んだ後、アーティスト自身の歌唱による民謡やポップス、革命歌をホーンスピーカーで流す作品や、ラジオのインターバル・シグナルをビブラフォンによって再現し、美術館から町の片隅にある天文台に向かって流す作品などを発表。音による多様な実践を行っている。昨年から今年にかけて、ドイツで戦禍を被ったホルンを探し集め、奏者に出してもらった音をトーンごとに録音し、リヒャルト・シュトラウスの「メタモルフォーゼン—23の独奏弦楽器のための習作」を解体・再構築する

『ザ・ミッシング・ストリングス』を発表した。音にならない音によって奏者の身体性を聞くと同時に、不在、喪失感、楽器と楽曲の背景に横たわる歴史を想起させる。また、今年ベルリンで開催された大規模な個展では、作曲家ハンス・アイスラーと密接に関係した映画と楽曲、その歴史的背景を、音と楽譜とFBIファイルで織り成した最新作が高く評価された。



Susan Philipsz
Photo: Nick Ash



〈参考作品〉
《カッコウの巣》2011
PHOTO: Nick Ash

本芸術祭では《カッコウの巣》(2011)を国内で初めて展示。中世イギリンドのカノン「夏は來たりぬ(Sumer Is Icumen In)」(1250年頃)を歌うフィリップスの声が、芸術の森の野外美術館敷地内にある樹木に囲まれた《北斗まんだら》の空間で、札幌市の鳥カッコウと共に夏の到来を告げる。



環境造形Q《北斗まんだら》

札幌芸術の森野外美術館にある《北斗まんだら》は1986年の札幌芸術の森美術館開館時に、「環境造形Q」という3名の日本人作家のグループによって、作品であることを志向しない無名性と「開かれたモニュメント」を理念に設計された空間です。一辺36mの正方形の敷地に、459個の北海道産安山岩の割石、9個の能勢産黒御影石、84本のアカエゾマツで構成されています。樹木に囲まれている特性上、空間のなかで音が回ることからも、カノンである「夏は來たりぬ」をモチーフにした《カッコウの巣》を展示します。

◇イアン・ウィルソン(ヨコハマトリエンナーレ2014) Ian Wilson

1960年、20歳の時に渡米。1968年5月、ニューヨーク市内のローレンス・ウェインのスタジオで初めての《ディスカッション》を行う。個人あるいは複数の人々とウィルソンが「対話」するという同作では、記録は一切とられない。その時、その場に居合わせた者の間にだけ存在する芸術として、今もその取組は続く。(ヨコハマトリエンナーレ2014ウェブサイトより許諾を得て引用)

【添付資料】◆参加アーティスト情報②

◇札幌大通地下ギャラリー—500m美術館 追加アーティスト



坂東 史樹 (Fumiki Bando)
北海道浦河町出身 札幌市在住
(参考作品)
《真夜の星々_ラスト・フライト》2012



藤木 正則 (Masanori Fujiki)
北海道旭川市出身 旭川市在住
(参考作品)
《レッドテープ》1992



今村 育子 (Ikuko Imamura)
北海道札幌市出身 札幌市在住
(参考作品)
《ゆめのとんでんみなみ村》2009



神谷 泰史 (Taishi Kamiya)
北海道札幌市出身 東京都在住
(参考作品)
《micromotion003》2013
Photo:Yatoo Takashi



宮永 亮 (Akira Miyanaga)
北海道出身 京都府在住
《WAVY》2014
Photo:Eiji INA



中嶋 幸治 (Kouji Nakajima)
青森県平川市出身 札幌市在住
(参考作品)
《私が土だった頃の少ない記憶から》2005-2009



櫛原 武正 (Takemasa Narahara)
北海道広尾町出身 札幌市在住
(参考作品)
《大地開墾》



Hidemi Nishida
北海道小樽市出身 ベルゲン在住
(参考作品)
《Fragile invitation _002KODEI》2014



鈴木 悠哉 (Yuya Suzuki)
福島県出身 ドイツ ベルリン在住
(2007年から5年間札幌にて創作活動)
(参考作品)
《out of the music》2013



谷口 順一郎 (Kenichiro Taniguchi)
北海道札幌市出身 ドイツ ベルリン在住



土田 俊介 (Syunsuke Tsuchida)
北海道札幌市出身 山梨県山中湖村在住
(参考作品)
《11-02》2011



山田 良 (Ryo Yamada)
東京都出身 北海道札幌市在住
(参考作品)
《Vertical Landscape》2009
Photo:Yoshiaki Maezawa